

事業所名

出水地域福祉事業所さくらんぼ放課後等デイサービス来やん

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7

年

2月

3日

法人（事業所）理念		私たちはのびのびとすごせる、成長できる居場所を目指しています。こどもの得意や不得意を理解し、気持ちや興味に合わせ、小さな経験を通して成長を見守って行きます。苦手な事も、どんな方法だったら「出来た！」につながるのかその過程は違うと思っています。子どもも「どうしてできないのかな?」「何で困っていることをわかってくれないのかな?」と思っているかもしれません。保護者の方と一緒に、子供の困りごとに寄り添いながら一緒に考え見守って行きます。						
支援方針		集団の中で過ごすことにより協調性、コミュニケーション能力、自発性、責任感等を育む。 1、協調性：他者の意見を取り入れ、衝突することなく物事を進める力。 2、コミュニケーション能力：相手の気持ちを理解し、相手の気持ちを考慮しながら自分の意見を伝える力。 3、自発性：自分の事は自分でする力。チャンスを生かして自発的に行動する。 4、責任感：自分の行動に責任をもって他人のせいにはしない。						
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	健康状態の維持、睡眠、排泄食事等の基本的な生活の習慣の形成の為、来所してからやるべきこと、挨拶・提出物・着替え・手指の消毒・うがい等が確実にできるように支援し、日常に適した挨拶や、生活に必要な基本的技能を習得できるように生活環境の工夫を行い、子どもの状態に応じて適切な支援をする。症状に応じて、賑やかな場所が苦手な子どもや集団の中に入れない子供に配慮して、適切場所の提供し、その子が安心して過ごせる環境の提供をする。						
	運動・感覚	室内でできる運動として、体幹トレーニング、風船バレー、長縄跳び、軽いゲームをしながら体を動かすことで心身のリフレッシュをする。天候や時間を見ながら戸外に出る事も多い。公園や施設を使用するときのルールを守りながら、季節を感じたり、解放感に浸る事を目的としている。公園でのマナーを学びながら、思いっきり体を動かしている。						
	認知・行動	カードゲーム、パズル、レゴブロック、折が紙、制作で頭指先などの神経を使う。制作で一杯考えながら作り上げる事の楽しさも味わえるように、苦手な子どもには一緒に寄り添いながら完成する喜びを共有する。遊び感覚で、「左右の確認」「交通ルール」「時間の感覚」等の知り得た知識の確認のために散歩などで実際に使ってみる。リトミック、ダンスなどで、音に合わせて体を動かす事も取り入れる。						
	言語 コミュニケーション	S・S・Tを利用し、日常生活の正しい言葉の使い方、その場に適した話のし方、相手を思いやりながらも自分を主張できるやり方を学ぶ。子ども同士の会話の中でも、不適切と思われる場合は中に入って正しい方法を考えてみる。相手に伝わる話し方を考えながら実際に一緒に使ってみる。場面に応じた話し方が出来るように支援していく。						
	人間関係 社会性	個々の特性を知り、できる事、できない事を理解し自己肯定感を持たせるような関わり方をしていく。集団行動が苦手な子どもには、寄り添いながら集団の中に入れるようなようなプログラムを設定し、回数を重ねる事で集団の中での自分の立場を見つける事が出来るように導く。						
家族支援		家族の心配事、聞いてみたい事を日頃からの信頼関係を構築して気軽に話せるような関係を築いていく。日々の様子はサービス提供記録を充実させ、実態が分かりやすいようにする。			移行支援		子どもに関係のある人すべて（相談員・学校・学童・他の福祉サービスや学童を利用している場合はその事業所）との連携を図る機会を作り、情報共有し支援に当たる。	
地域支援・地域連携		みんなの食堂を毎月1回開催している。地域の方がどなたでも参加できるように「子ども食堂」でなく、「みんなの食堂」とした。放課後等デイサービスを利用している家族、地域の方の参加もある。食材の提供は近隣の「マルイ」「JA鹿児島いづ様から定期的にいただき、「子ども食堂のために」と自宅の野菜や品物を市役所経由で提供していただいている。			職員の質の向上		子育てPJ会議、様々な研修に職員全員で臨み、情報を共有している。放課後等デイサービスで重要な虐待、拘束はお互いに日々の行動を確認しながら話している。コンプライアンスを熟知し違反にならないような運営を心がけている。	
主な行事等		新年の初詣から始まり、節分、ひな祭り、ハロウィン、クリスマスなど1年を通して毎回行っている。行事の前にはセット作り等で気分を上げている。						毎月